

カルチャー・ショックにあわてないために

## 組織、資源、文化の違いを活かし、 わくわくする創作料理を!

組織も人も、それぞれ得意なこと、苦手なことが違います。違いを活かし、新しい料理を創りあげるには、「ことばの共有」と「相手への想像力」が欠かせません。



### 1 相手の気持ちの良いツボを

協働する相手とうまくお付き合いするには、まず心が触れなければ。「あなた」と「わたし」の得意なことを活かし合い、苦手な部分を補い合う、そんなお付き合いが理想ですね。

### 2 お互いのメリットを生み出す工夫を

ヒト、カネ、モノ、ハコなど異なる資源を持ち寄るのが協働です。各自が提供できるもの (give) を組み合わせ、さらに各々にとってのメリット (take) をどううまく創り出すかが腕の見せ所。

### 3 愛(協働)はお金では買えない... けど、お金も大切

知識、技術、マンパワーを、無償で出せるか出せないかは個人・組織によって違いますし、時間が経つと変わることもあります。「タダで当然」と思わずに、きちんと確認・相談しましょう。

### 4 オリジナル・ルールづくりを

たとえばNPOスタッフ・学生さんと行政や企業の職員・社員さんとは働く時間帯や連絡手段が違います。相手とのオリジナル・ルールをつくると、実務上の行き違いを減らすことができます。

### 5 「通訳さん」いませんか

普段使っている言葉が違うことがトラブルの種になることがあります。異なる組織文化の言葉を通訳してくれる方や、第三者としての立場からアドバイスしてくれる方を探してみませんか。

### チェックリスト!

- ☐ あなたやあなたのいる組織のもつ資源や文化の強み、弱みを言葉にして整理してみましたか
- ☐ 各個人・組織にとってどんなメリットがあるか、考えてみましたか
- ☐ 「タダで当然」と思わず、お金のことを確認・相談してみましたか
- ☐ メンバーの活動時間帯や、日常/緊急時につかう連絡手段の違いなどを確認してみましたか
- ☐ その言葉は、自分たちだけに通じる「方言」ではありませんか

### コラム



「相手の身になって考えろ」ってよく言われますが、具体的にどうすれば良いのでしょうか。協働の場合は、相手側のキーパーソンとなる方の個性や想いはもちろん、その方が所属している組織の特性についても理解を深めていく必要があります。たとえば企業が協働事業に参加するには、社内で稟議を通す必要があります。どういう事業計画であれば稟議が通りやすいだろう、と考えてみましょう。つまり、相手の組織内での意思決定を後押しするような手法やストーリーづくりのために、一緒に知恵を絞るということです。